

作物統計調査
令和7年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量

令和7年産主食用米収穫量は、56万トンの増加(1.70mmベース)との当初の予想を上回り、前年に比べ63万4千トンの増加(生産者が使用しているふりい目幅ベース)。予想収穫量は平成29年以来最高の見込み。

【調査結果の概要】

- 1 令和7年産の水稻の9月25日現在の生産者が使用しているふりい目幅1.85mm、1.90mm等ベースの予想収穫量(主食用)※1は715万3,000 tで、前年産に比べ63万4,000 t増加と見込まれる。

※1 生産者が使用しているふりい目幅1.85mm、1.90mm等ベースのふりい上米

これは、

- ① 作付面積(主食用)が、新規需要米や備蓄米等からの転換等があったため、136万7,000haで、前年産に比べ10万8,000ha増加と見込まれることに加え、
② 9月25日現在における全国の10a当たり予想収量(生産者が使用しているふりい目幅ベース)は、一部地域で5月上旬から6月中旬にかけての気温や日照時間が前年を下回る地域があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれたため、524kgで、前年産に比べ5kg増加と見込まれるためである。

- 2 全国の作況単収指数は102と見込まれる。各都道府県の作況単収指数は、統計表のとおりである。

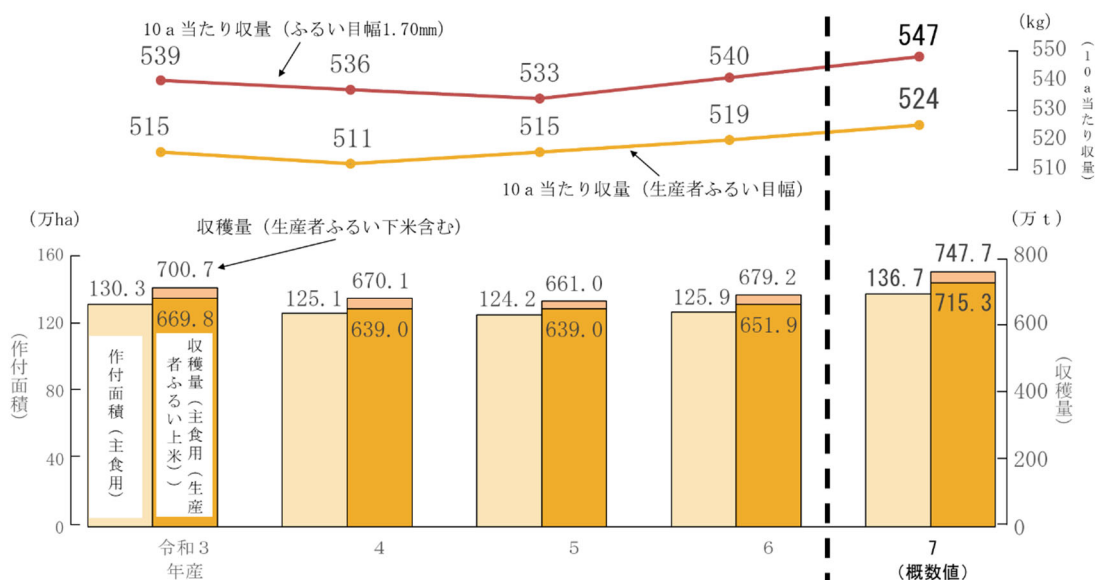
参考

令和7年産の水稻の9月25日現在のふりい目幅1.70mmベースの予想収穫量(主食用)※2は747万7,000 tで、前年産に比べ68万5,000 t増加と見込まれる。

※2 生産者が使用しているふりい目幅1.85mm、1.90mm等ベースのふりい下米を含む。

- 今回から生産者の実感に合うよう、生産者が使用しているふりい目幅1.85mm、1.90mm等で収穫量を公表することとし、前年産まで収穫量(主食用)として公表していたふりい目幅1.70mmの収穫量(主食用)は、令和7年産以降、収穫量(主食用(生産者ふりい下米含む))と表記することとした。

図 水稻の作付面積(主食用)、10a当たり収量及び収穫量の推移(全国)



- 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である（5ページの【参考1】参照）。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である（令和7年産は予想）。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である（令和7年産は予想）。
- 10a 当たり予想収量及び予想収穫量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

◎ 累年データ

水稻の年次別推移（全国）

年 産	作 付 面 積 (青刈り面積を含む。)		生産者が使用している ふるい目幅で選別			ふるい目幅 1.70mmで選別			作況 単収 指数
	主食用	10 a 当たり 収 量	対前年比	収 穫 量 (主食用 (生産者 ふるい上米))	10 a 当たり 収 量	対前年比	収 穫 量 (主食用 (生産者ふる い下米含む))		
	ha	ha	kg	%	t	kg	%	t	
平成7年産	2,110,000	...	...	...	...	509	94	...	103
8	1,980,000	...	...	...	...	525	103	...	106
9	1,950,000	...	...	...	...	515	98	...	100
10	1,800,000	...	...	...	...	499	97	...	97
11	1,786,000	...	...	...	...	515	103	...	100
12	1,768,000	...	...	...	...	537	104	...	105
13	1,711,000	...	...	...	...	532	99	...	103
14	1,693,000	...	...	...	...	527	99	...	101
15	1,670,000	...	...	...	...	469	89	...	89
16	1,704,000	...	...	...	...	514	110	...	98
17	1,709,000	...	...	...	...	532	104	...	102
18	1,692,000	...	...	...	...	507	95	...	97
19	1,678,000	...	...	...	...	522	103	...	101
20	1,637,000	1,596,000	...	...	...	543	104	8,658,000	106
21	1,637,000	1,592,000	...	...	...	522	96	8,309,000	100
22	1,657,000	1,580,000	...	...	...	522	100	8,239,000	99
23	1,632,000	1,526,000	...	...	...	533	102	8,133,000	102
24	1,641,000	1,524,000	...	...	...	540	101	8,210,000	103
25	1,647,000	1,522,000	...	...	...	539	100	8,182,000	101
26	1,639,000	1,474,000	...	...	...	536	99	7,882,000	101
27	1,623,000	1,406,000	515	nc	7,228,000	531	99	7,442,000	99
28	1,611,000	1,381,000	531	103	7,322,000	544	102	7,496,000	101
29	1,600,000	1,370,000	517	97	7,077,000	534	98	7,306,000	99
30	1,592,000	1,386,000	511	99	7,081,000	529	99	7,327,000	99
令和元	1,584,000	1,379,000	514	101	7,061,000	528	100	7,261,000	99
2	1,575,000	1,366,000	508	99	6,906,000	531	101	7,226,000	99
3	1,564,000	1,303,000	515	101	6,698,000	539	102	7,007,000	100
4	1,545,000	1,251,000	511	99	6,390,000	536	99	6,701,000	100
5	1,531,000	1,242,000	515	101	6,390,000	533	99	6,610,000	101
6	1,514,000	1,259,000	519	101	6,519,000	540	101	6,792,000	101
7 (概数値)	1,520,000	1,367,000	524	101	7,153,000	547	101	7,477,000	102

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 作況単収指数は、10a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a 当たり収量の比率である。また、平成7年産から令和元年産までの作況単収指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、令和2年産以降の作況単収指数は生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した数値である。

【調査結果】

- 1 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は136万7,000haで、前年産に比べ10万8,000ha増加が見込まれる。これは、新規需要米や備蓄米等からの転換等があったためである。
- 2 9月25日現在における全国の10a 当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、524kg（前年産に比べ+5kg）と見込まれる。
これは、一部地域で5月上旬から6月中旬にかけての気温や日照時間が前年を下回る地域があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれたためである。
これを地域別にみると、以下のとおりである。
北海道においては、6月上旬までの日照不足により全もみ数がやや少なくなったこと等から、550kg（前年産に比べ△12kg）と見込まれる。
北海道と沖縄県を除く各地域では、6月中旬までの低温、日照不足により、東北、関東等では穂数が少ない地域がみられたものの、6月下旬以降おおむね天候に恵まれ、多くの地域で全もみ数が前年以上に確保されたこと等から、東北は556kg（同±0kg）、北陸は516kg（同+6kg）、関東・東山は524kg（同△5kg）、東海は493kg（同+19kg）、近畿は504kg（同+16kg）、中国は516kg（同+18kg）、四国は489kg（同+18kg）、九州は479kg（同+13kg）と見込まれる。
沖縄県は、田植期以降、4月下旬まで低温で推移したこと等から、305kg（同△14kg）と見込まれる。
- 3 主食用作付面積に10a 当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は715万3,000t（前年産に比べ63万4,000t 増加）と見込まれる。
- 4 全国の作況単収指数は102と見込まれる。

参考

ふるい目幅1.70mmベースの予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は747万7,000t（前年産に比べ68万5,000t 増加）と見込まれる。

○ 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a 当たり収量の比率である。

表 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び9月25日現在の予想収穫量
（全国農業地域別）

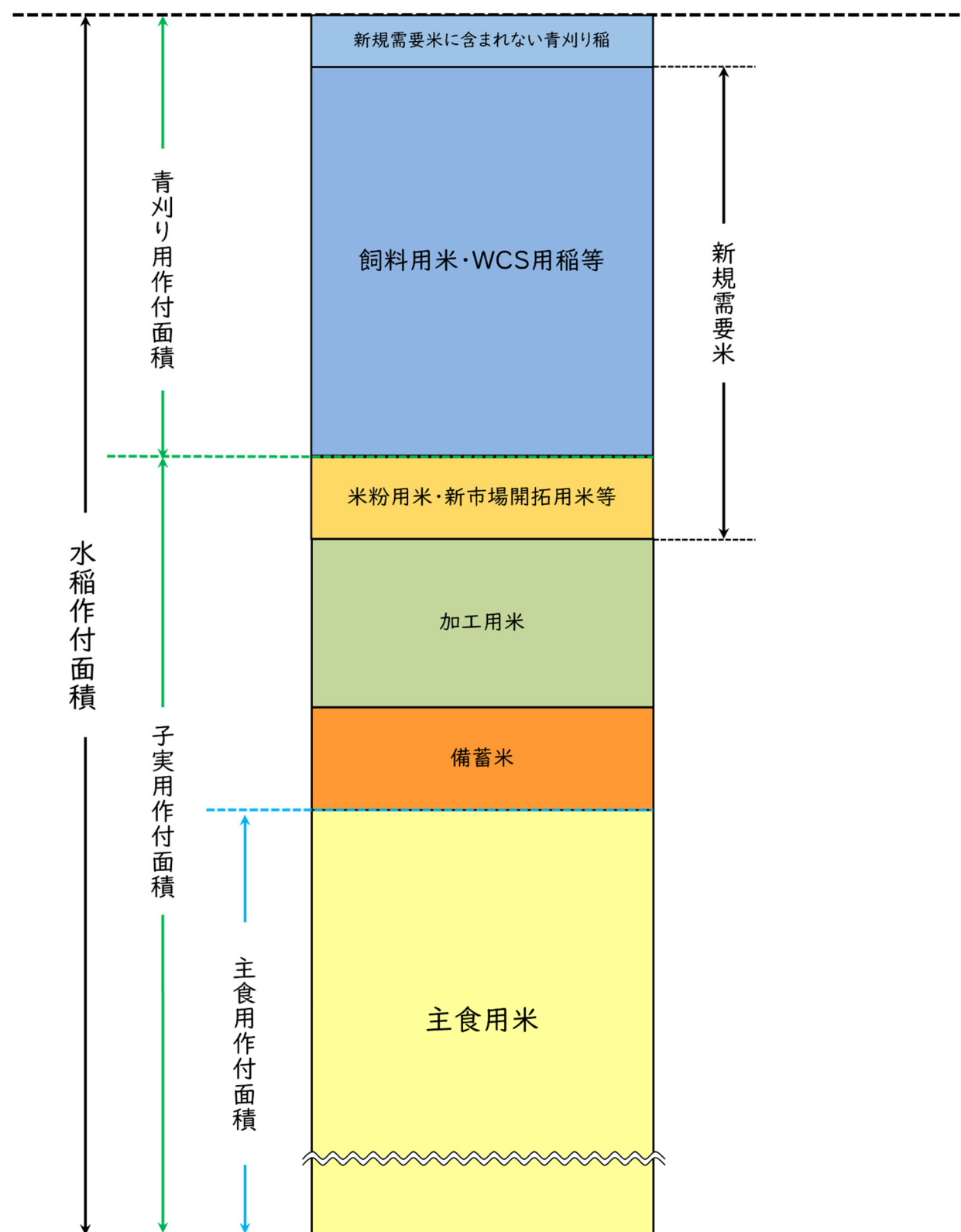
全 国 農業地域	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別				
	実 数 ①	前年産との比較		10a当たり 予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい上米））		
				実 数 ②	前年産との比 較	実 数 ③＝①×②	前年産との比較	
		対 差	対 比				対 差	対 比
	ha	ha	%	kg	%	t	t	%
全 国	1,367,000	108,000	109	524	101	7,153,000	634,000	110
北 海 道	90,400	6,700	108	550	98	497,200	26,800	106
東 北	361,100	41,300	113	556	100	2,009,000	233,000	113
北 陸	187,700	11,900	107	516	101	968,900	72,900	108
関 東・東 山	260,700	25,700	111	524	99	1,367,000	123,000	110
東 海	87,000	3,600	104	493	104	428,700	33,100	108
近 畿	93,500	2,900	103	504	103	471,500	29,500	107
中 国	92,700	2,300	103	516	104	479,600	29,600	107
四 国	43,700	1,400	103	489	104	213,400	14,000	107
九 州	149,500	11,300	108	479	103	715,800	72,600	111
沖 縄	597	40	107	305	96	1,820	40	102

全 国 農 業 地 域	ふるい目幅1.70mmで選別					作況 単収 指数
	10 a 当たり予想収量		予想収穫量 (主食用(生産者ふるい下米含む))			
	実 数 ④	前年産との 比較	実 数 ⑤=①×④	前年産との比較		
		対 比		対 差	対 比	
	kg	%	t	t	%	
全 国	547	101	7,477,000	685,000	110	102
北 海 道	573	97	518,000	22,500	105	98
東 北	585	100	2,113,000	248,000	113	101
北 陸	540	101	1,013,000	74,200	108	101
関 東・東 山	543	100	1,415,000	133,000	110	100
東 海	508	104	441,200	33,700	108	103
近 畿	527	104	493,200	33,600	107	104
中 国	540	105	501,900	38,900	108	104
四 国	503	105	219,400	15,800	108	104
九 州	508	104	760,600	84,600	113	103
沖 縄	311	95	1,860	40	102	97

- 注：1 作付面積（主食用）（①）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり予想収量（②）及び予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））（③）は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり予想収量（②）については、都道府県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
- 4 10a当たり予想収量（④）及び予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））（⑤）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 5 予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））（③）及び予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米を含む））（⑤）については、都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
- 6 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a当たり収量の比率である。
- 7 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから「…」で示しており、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米及び生産者ふるい下米を含む））の算出は、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平均収量（前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く））の加重平均を用いた。

【参考 1】

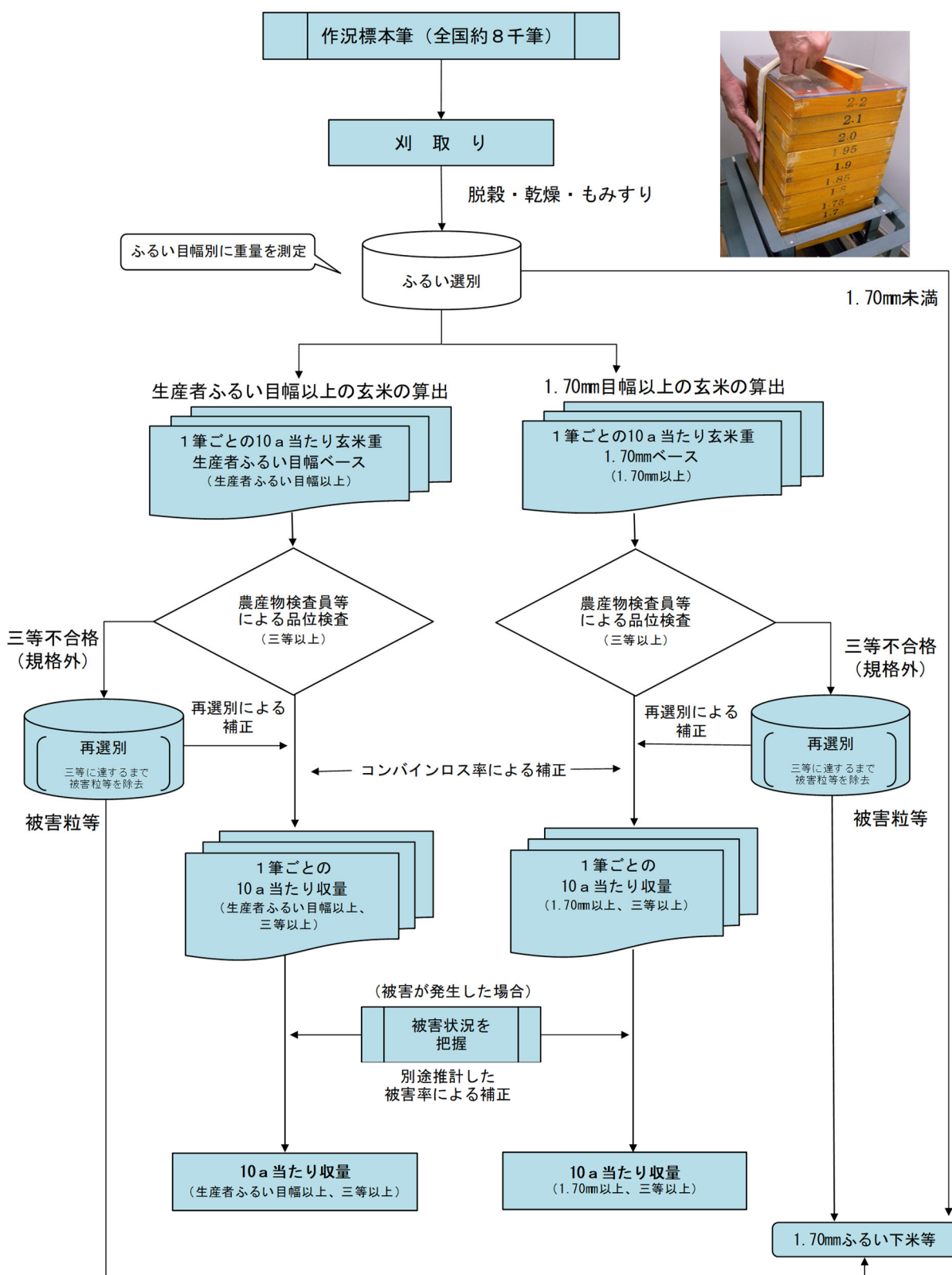
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

刈取り調査における 10 a 当たり収量の算出方法

作況標本筆（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位以上に相当するよう選別を行い、その重さを計測し、コンバインロス率及び被害率による補正を行い 10 a 当たり収量を算出している（下図参照）。

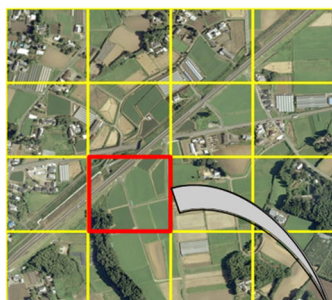


【参考3】

作況標本^{ふで}筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約8千筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



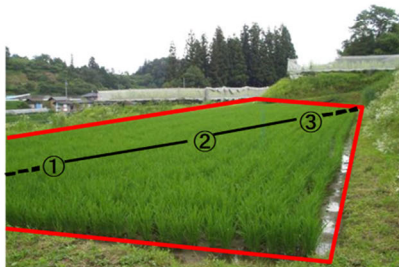
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で約8千筆）

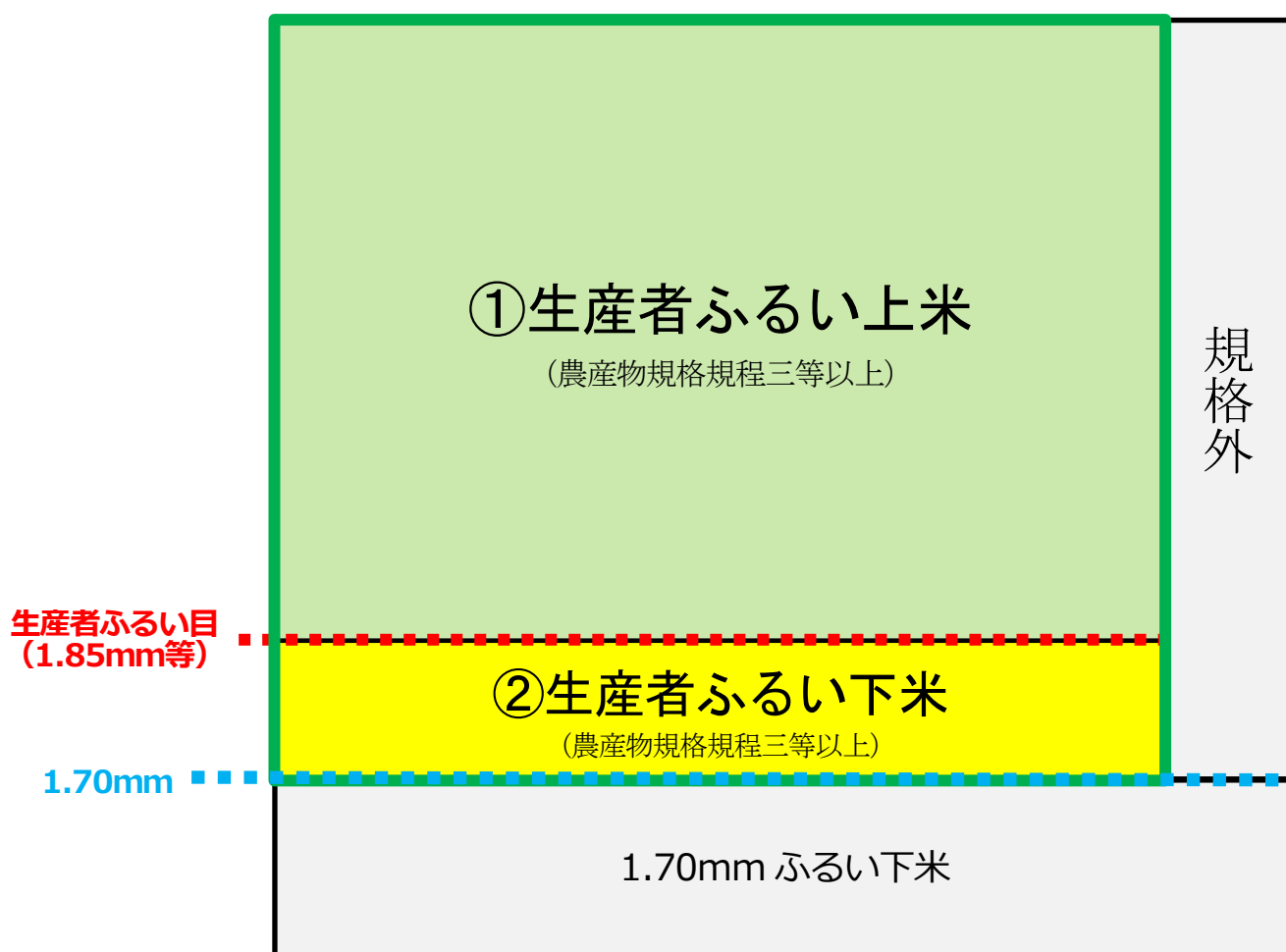


- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【参考 4】

水稻収穫量調査の収穫量イメージ

- ① 収穫量（生産者ふるい上米）は、都道府県ごとに最も使用されている生産者ふるい目（1.85、1.90mm 等）以上で農産物規格規程三等以上の収穫量を対象としている。
- ② 収穫量（生産者ふるい下米）は、ふるい目幅 1.70mm 以上、農産物規格規程三等以上で生産者ふるい目幅未満の収穫量を対象としている。
- ③ 収穫量（生産者ふるい下米含む）は、①と②をあわせた収穫量（緑枠）を対象としている。



【統計表】

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files/data?sinfid=000040321385&ext=xls>

【調査の概要】

・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定め
ることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における品目ごとの生産量や作付面積等のKPIの設定及び
検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 本資料は農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積・生産
量、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、か
んしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y3

- ・ 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、ホームページに掲載
（令和8年2月予定）します。
- ・ 次回（10月25日現在）の公表は、令和7年11月中旬の予定です。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関
する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予察事
業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測
の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っ
ている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

お問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3682

（直通）03-3502-5687

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 統計広報推進班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3589

（直通）03-6744-2037



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



SAFF

データの力で。

農林水産統計
Statistics of Agriculture,
Forestry and Fisheries